

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2019.7.20 Summer

No.
63

NEWS



2019年度福祉助成金事業～助成金贈呈式

応援したい、応援がほしい
その気持ちをつないで

就任のごあいさつ

「人は自立して生活することで
幸せを感じられる」を大切に

理事長 山内雅喜



みなさま、こんにちは。
このたびヤマト福祉財団理事長を務めさせていただくことになりました山内雅喜と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この財団の創設者である小倉昌男さんは、「あらゆる障がい者が健常者と肩を並べ、街に出て仕事をし、人生を楽しめる社会を作るべきだ」と言っておられました。そこには、人は自立して生活することで幸せを感じられるんだという思いがあります。私はこの考え方を大切にしていきたいと思っています。

自分で自分の生活をつくっていく(＝自立していく)、そのためには、それを支える金銭的な裏付け、つまり収入が必要となります。「収入をいかに伸ばしていくか」が大切なテーマになります。そのために福祉財団ではこれからも作業の効率を上げるために必要な投資の支援を行ったり、売り上げを伸ばすための経営手法を学ぶ場を提供したり、いろいろな取り組みを続けてまいります。

私は学生時代、自閉症の子の家庭教師の経験があります。家庭教師といっても勉強というより一緒に遊んだりすることが中心でした。彼は不得手なこともありましたが、ものを記憶したり正確に作業したりすることにおいては抜群の能力を発揮しました。人はできるできないではなくて、得手不得手があるだけなんだと衝撃をもって理解したのを覚えています。得手を発揮できる環境があればいいんだ、と。

みなさまからいろいろなご意見をいただきながら、ヤマト福祉財団の活動をさらに発展させていき、あらゆる障がい者の方が幸せになれる社会を目指していきます。

よろしくお願いたします。

CONTENTS

表紙写真

ジャンプアップ助成金を贈呈した(社福)エルム福祉会「hikari no café」にヤマト運輸労働組合田中克明栃木支部執行委員長と栃木主管支店安全推進課出口孝夫課長がお伺いしました。

03

2019年度福祉助成金事業～助成金贈呈式
応援したい、応援がほしい
その気持ちをつないで

10

助成先レポートVol.38
NPO法人かし和の雫 栗石町福祉作業所かし和の郷(岩手県岩手郡栗石町)
町の誰もが笑顔になる花

08

2019年度 障がい者給料増額支援助成金 障がい者福祉助成金
全国で助成金の贈呈式を行いました

12

この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
雨や猛暑、吹雪の日だって、楽しい配達の日に変わりはない。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

2019年度
福祉助成金事業～助成金贈呈式

応援したい、
応援がほしい、
その気持ちをつないで



家庭科室を改装しスイーツの新工房へ。全体の生産性を上げ、より多くの利用者さんが働ける環境づくりに助成金を使います

ヤマトグループの寄付や賛助会費、労働組合からの夏のカンパを活用し、障がいのある方の経済的自立を目指す福祉施設を応援しています。さらなる給料増額を目指す施設を応援するジャンプアップ助成金もその一つです。

2019年度は、9施設へ定額500万円の助成を決定。5月23日に、栃木県大田原市にある(社福)エルム福祉会の「hikari no café(ヒカリノカフェ)蜂巢小珈琲店」で贈呈式を行いました。出席されたのは、ヤマト運輸労働組合栃木支部の田中克明支部執行委員長と、ヤマト運輸栃木主管支店安全推進課の出口孝夫課長のお二人です。



栃木県大田原市の廃校となった小学校をリノベーションした「hikari no café(ヒカリノカフェ)蜂巢小珈琲店」へ、ジャンプアップ助成金を贈呈しました



廃校となった木造校舎を再利用 カフェやパンとお菓子の工房に

東京駅から那須塩原駅まで新幹線を使って1時間ちょっと。駅からはバスで約30分ですが、1時間に1本あるかないかで乗り遅れると大変です。バス停から10分ほど歩くと、のどかな田園風景が広がる先に、ポツンと旧蜂蜜小学校が見えてきました。

この廃校となった小学校を再利用し、障がいのある方が働くカフェと、パンやスイーツをつくる工房へとリノベーションしています。こんな寂しい場所にお客様が訪れるのだろうか。そんな心配を抱きながら、駐車場に整備された校庭に入っていくと、驚くほどたくさん車が停まっています。

「オープンして3年目ですが、いまは年間約3万人のお客様がここを訪れているんですよ」と笑顔で迎えてくれたのは、施設長の川上聖子さんです。

「築90年になる木造校舎はとても味わい深



カフェと地域のコミュニティスペースにリノベーションした旧蜂蜜小学校の中を、川上施設長に案内していただきました



カフェでは、利用者さんにサーブしてもらい、限定ランチをいただくことに



見た目にもこだわったメニューは、食事も飲み物もすべてが一級品

く、地元の方の思い出もたくさんつまっていますから、できるだけ形を残すようにしました。その言葉通りに外観はもちろん、各教室の机や椅子などを上手に活かし、地元の方や子どもたちの絵画や写真などを展示するギャラリー、学校や町の歴史を紹介する資料室など地域のコミュニティスペースとして開放しています。○年○組、音楽室、体育館などのなつかしい案内板に導かれ歩いていると、故郷の小学校に帰ってきた“そんなほっこりとした気持ちになつてきます”。

カフェに改築したのは、職員室と校長室とその隣の教室です。壁や天井を取り払い広い空間をつくると清潔感あるホワイトで統一。大きな窓からは、明るい陽射しが差し込み、その向こうにはお洒落なオープンテラスも設置されています。いまも現役で活躍するオルガン、動かなくなってしまうたけれどかつては児童たちに時を告げていた古時計などをレイアウトし、レトロでモダンな雰囲気 연출。黒板はそのまま残し、イラストも添えた本日のラン

チメニューを手書きで紹介しています。

「内装は、設計担当者と一緒に私たちが考えました。だから素人アイデアで一杯です（笑）。当初は1年かけてオープンする予定でしたが、お店の雰囲気やメニューなどにこだわり、2年間悩み考えやっとなんて完成しました”。

6年生教室を活用した工房では、クッキーやパンづくりに勤しむ利用者さんの姿を見学。さらに本助成金で、新たにスイーツ工房へと改築予定の家庭科室を視察したあと、1日約80食の限定メニューのランチをいただくことに。料理を運んでくれたのは、カフェのホールスタッフとして活躍する利用者さんです。

素材には、利用者さんが工房で焼いたパンやスイーツ、地元農家をつくる新鮮な野菜に珍しい古代米も使用しています。メニューの味付けはもちろん、食器などにもひと工夫。給食で使うプレートや先割れスプーン、サラダやデザートへの入れ物はなんとピーカーです。目でも舌鼓を、そんなアイデアが詰まった楽しいランチでした。



ジャンプアップ助成金
贈呈式・特別座談会

地域に愛される学び舎をリノベーション

働くことで多くを学び、

やがては社会へと巣立つ場にも



本誌 見学された感想はいかがですか？

田中 こんな田園風景の真ん中にお洒落なお店と工房が現れるとは、驚きです。

出口 ここに向かってくる時、周りには田んぼや山しか見えなくて、その先にあったのが廃校になった古びた校舎。ところが一歩中に入ると、素敵な空間が広がっていたので、とても感動的でした。

田中 お店の雰囲気には、ここをつくられたみなさんの人柄がにじみ出ている気がします。

出口 どこかやさしきを感じますね。

川上 そういつていただけるとうれしいです。

本誌 (社福)エルム福祉会が、カフェ事業をはじめたきっかけはなんだったのですか？

川上 35年前、私たちは、大田原市で初の障がい者の作業所を開所しました。当時は受託作業ばかりで売上が伸びず、給料も月額平均2万円程度。自分の力で働いて稼いで、自立した生活をというのが私たちの考えでしたが、このままでは難しい。そこで2005年に作業所を改装し、hikari no café本店をオープンしました。16席の小さなカフェですが、「障がい者のお店だからこんなもの」とは言われたくありません。私たちが目指したのは「他店より値段が高くても買ってもらえる価値のある商品を提供すること」。クッキーの味付けな



座談会出席者：写真左よりヤマト運輸労働組合栃木支部 田中克明支部執行委員長、ヤマト運輸栃木主管支店安全推進課 出口孝夫課長、(社福)エルム福祉会川上聖子施設長(文中敬称略)

(社福)エルム福祉会「地域のヒカリとなり、福祉のヒカリとなる」

「学校を卒業した障がいのある子どもたちに居場所を、働く場を」。創始者・楡井氏が私財を投じて1984年に創設した(財)エルム会を前身に、1997年に(社福)エルム福祉会は誕生しました。当初は受託作業中心でしたが、より高い給料を目指し新事業を模索。2005年に利用者さんが働くhikari no café本店を市内にオープンします。一般のカフェに負けない、愛されるお店と商品づくりを目指す職員と利用者さんの努力が実を結び、売上も給料もアップ。さらに2店舗目として、2016年に廃校となる蜂巣小学校を無料で借り受け開店したhikari no café蜂巣小珈琲店が大盛況に。この実績を大田原市に評価され、2019年には3店舗目となるhikari no café大田原市庁舎店もオープンしました。

どに試行錯誤を重ね、利用者さんの接客サービスもより上を目指して指導していきました。さらにこだわったのは、利用者さんが自分のお店を自慢できるカフェづくりです。内装や商品の展示の仕方などを工夫し、レトロでモダンなお店にしました。

出口 1号店から同じコンセプトなのですね。

川上 現在ある3店舗のカフェはすべてを統一しています。スイーツなどの評判も良くお客様は徐々に増え、給料は4万円を超えるまで増額できました。次は2号店だーと考えていたとき、廃校となった蜂巣小学校の再利用計画を大田原市が公募していると聞いたのです。

本誌 それでプロポーザルに挑んだと。

川上 ここを下見にきたとき、木造校舎の雰囲気と田園風景がとてもいいと感じました。

地域の大切な思い出の場所を 障がいのある方が守ってくれる

川上 学校は学びの場です。利用者さんは、仕事や人とのコミュニケーションなどいろいろなことを学び、やがては一般就労して卒業していく、そんな流れもびったりあります。

田中 学校というのは、人生の中でも特別な時間を過ごした思い入れの強い場所です。この小学校を卒業した方は、入った瞬間にいろいろなことが頭に浮かんでくるでしょう。そんな場所を取りこわさずに、障がいのある方たちの手でしっかりと守り、役立ててくれている。これは地域の方にとって、非常にありがたいうれしいことだと思います。

本誌 オープンして周りの方の反応は？

川上 「たくさん車が停まっています、毎日がP

TA総会みたいだ」なんて(笑)。知らない間に近所の方が校庭の除草をしてくれたり、餅つき大会などの恒例イベントも毎年楽しみに参加いただけるようになりました。

出口 すっかり地域の一員ですね。

川上 最初は、障がいがあるということ、お年寄りの中には少し引かれていた方もいたと思います。でもいまは孫を見守るように接してくれています。「今日も頑張ってるね」と気軽に声をかけてくれて、利用者さんは元気に手を振って応える。そんな感じで自然にコミュニケーションできていくのがうれしいです。

田中 みなさんカフェに来ているのですか？

川上 それだけでありません。定休日の月曜には、校庭を地元のグラウンド・ゴルフを愛好するお年寄りに開放しています。音楽室や教室の一部は、無料で使えるギャラリーにし、ミ

ニ音楽会や講演会などいろんな形で利用させていただいています。体育館や校庭では、スポーツ関連の大会も開催されています。それぞれ自由に楽しめたあと、カフェでお茶や食事をしたリ、パンやお菓子を直売所で購入されていますので、売上は順調に伸びています。

また来たいと思わせてくれる おもてなしと美味しい料理

本誌 これまで苦勞されてきたことは？

川上 やはり人を育てることですね。料理のメニューとレシピ開発は、シェフに協力いただき、パティシエとブーランジェ(パン職人)は一口を雇いました。接客サービスや店舗経営などは、自分たちの役割ですが、私はもちろん職員みんなが未経験者です。中には障がい者の支援をはじめという人もいましたので、すべ

てを1から学び、さらに教えていかなければならなかったわけです。

本誌 カフェでは利用者さんのサーブで食事をいただきましたが、いかがでしたか？

出口 本当に素晴らしい料理でびっくりしました。これだけのものをプロだけでなく、障がいのある方も一緒につくっているのですから、指導がいかに良いのかわかります。これだけ美味しく感じるのには、材料やレシピだけでなく、木造のやさしい雰囲気と、心がこもったおもてなしがあるからでしょうね。

川上 利用者さんのお客様への気遣いには、びっくりさせられることもあります。たとえばプリンをテイクアウトされるお客様に、彼らは車まで商品をお持ちしてお見送ります。感激したお客様から「とても温かい気持ちになりました」とメールが届くことも。利用者さんは、単に仕事ではなく人として接している。厨房での仕事ぶりもそうですが、自然で何気ない思いやりこそ相手の心に響きますね。

田中 栃木主管にも障がいのある方が働いているので良くわかります。まずは一人ひとりのことを知る、知ろうとすることが大事ですね。

出口 当社の企業理念の中に「地域社会から信頼され、社会にとって存在意義のある企業へ」と書かれています。それを実現する取り組みの一つが「障がいのある方の自立支援」ですが、具体的にどうしたら良いか、ピンと来ない人も多いです。でもここで障がいのある方の働く姿を見れば、いろいろなことが見えてくると思います。それを周りに伝え、自分たちができることを一緒に考えていく。それが、障がいのある方の自立支援につながる一歩になるのではと感じました。

本誌 現地に来ていただければ、みなさまの



プロの指導のもと、利用者さんは着々と腕を磨いています



助成金を活かし家庭科室を新たなスイーツ工房に改装し、いまの工房はパン専門にします。二つの工房に分かれることでより広々と安全に作業ができ、全体の生産性も大幅にアップします



教室は地域のギャラリーとして、生徒が使っていた机と椅子、黒板もカフェで再利用(写真上)。カフェの入り口にある校長先生が使っていた机と椅子に座る、田中支部執行委員長(写真下)

支援が、どのような目的でどう使われているかもよりご理解いただけますね。

福祉と宅急便、立場は違っても地域を盛り上げていく同じ仲間

田中 カフェの売上の柱はランチですか？

川上 お客様の一番の目的はランチですが、限定数のため売り切れたあと、たくさんの方がパンやスイーツを買っていかれます。

田中 提供している商品は？

川上 フォカッチャ3種類、スコーン4種類、ケーキ8種類です。食事パンの予約も多く生産が追いつきません。そこで工房で働く人数を増やしましたが、一人当りの作業スペースが狭くなり、思ったほど生産性は上がりませんでした。

出口 それで先ほど見学した家庭科室をスイーツの工房に改装することにしたのですね。

川上 はい、スイーツとパンを別々の工房でつくれば作業効率も良いですし、より広く安全に仕事ができます。実は助成申請後に、テイクアウト中心の大田原市庁舎店をオープンしたのですが、ここが想像以上に反響が大きかったんです。飲み物以外の売上は月10万円程度と考えていたら、口コミで評判が伝わり、職員以外にも多くの方が来店され、テイクアウトだけで売上は月約28万円と予想の約3倍に！申請が通って本当に良かったとホッとしていました。パン工房には新しいオーブンも導入する計画ですし、生産性はぐっと向上します。また、うちで働きたいと希望される障がいのある方もまだまだたくさんいますので、その点でも早急に新工房が必要です。

出口 スイーツ工房の完成はいつですか？

川上 7月に着工し、9月末には完成します。



カフェの厨房では、就労継続支援A型事業所の利用者さんがシェフのレシピをもとに軽食やデザートを作成。ランチとともに売上の柱となっています

これを機にhikari no cafeのブランドも構築していきたいですし、利用者さんからパティシエやブルーランジエとして一般就労できる方も育てていきたいと考えています。

出口 これからがますます楽しみです。

田中 夏のキャンパは、何十年と続いています。が、こちらのような施設に役立てられていることを知れば、組合員もきつと喜ぶと思います。宅急便と福祉、立ち位置は違いますが、地域を一緒に盛り上げていく仲間として、お互いに頑張っていきたいと思います。

川上 ありがとうございます。新工房が完成したら、ぜひまたいらしてください。



食パンの種類により「光・恵」、フォカッチャには「穂」、真ん丸パンには「真」と利用者さんの名前をとって商品名に



ジャンプアップ助成金で、家庭科室を新しいスイーツ工房に改装

事業計画名：スイーツ工房・パン工房の分離に伴う廃校利用による生産増量計画(就労継続支援B型事業所)

助成金の用途：改修工事費、設計監理費

※総工費1,500万円のうち500万円を助成(他1,000万円は自己資金、借入資金)

効果

パンとスイーツで工房を分けることで、パン用のオープンなどの機械を導入するスペースを確保でき、より生産性を向上。利用者一人当たりの作業スペースは2倍以上に。新しい利用者の雇用も実現できます。

売上見込み

2019年度は、製造量で前年比20%増、売上も20%増の1,140万円。

利用者人数と給料(就労継続支援B型事業所)

- ・2017年度実績：22,880円(13名)
- ・2018年度実績：25,970円(15名)
- ・2019年度計画：28,020円(16名)
- ・2020年度計画：30,049円(17名)

※hikari no café蜂蜜小珈琲店は、カフェの運営スタッフが就労継続支援A型事業所、パン・スイーツ工房のスタッフがB型事業所の利用者さんです。

全国で助成金の贈呈式を行いました

東北支社

米沢の事業所に助成金
ヤマト福祉財団の障がい者事業



公益財団法人ヤマト福祉財団（東京）の本年度「障がい者福祉助成事業」助成先が、県内から選ばれた米沢市の指定障がい者福祉サービス事業所「フラワーコート米沢」（赤尾雷水理事長）への贈呈式が18日、天童市の天童ホテルで行われた。

フラワーコート米沢は2006年から、カタログなどを届けるヤマト運輸フロネコDM便の配達を請け負

現在、7人が車や自転車、徒歩で月平均1万5千通を配達。障害者施設では全国で2番目の取扱数で、工賃は県内トップクラスという。助成金は120万円、軽ワゴン車の購入費に充て配達エリアを拡大する。

贈呈式はヤマト運輸山形主管支店全体会議の席上行われ、黒岩俊也執行役員東北支社長が利用者代表の鈴木幸平さん（40）に贈呈書を手渡した。赤尾理事長が温かい支援を大事に使い利用者の工賃アップにつなげたいと謝辞を述べた。

同財団の本年度助成金は全国で37件8377万円、県内はフラワーコート米沢のみ。

（瀬野麻衣）

山形新聞 4月19日

北海道支社



北関東支社



東京支社



南関東支社



北信越支社



中部支社



四国支社



関西支社



九州支社



中国支社



町の誰もが笑顔になる花

岩手県の中中部、秋田県にも隣接する雫石町は、スキー場や温泉、そして小岩井農場などで知られる観光の町です。近年は春になると、菜の花畑の黄色いカーペットが町を彩っています。その「菜の花」をつかって、障がい者の給料アップに挑む〈かし和の郷〉を訪ねました。

Data

NPO法人 かし和の郷
雫石町福祉作業所 かし和の郷
岩手県岩手郡雫石町



黄金色に輝く〈菜の雫〉の瓶詰め作業



搾油のまえにゴミや品質の悪い菜種を取り除く選別作業



搾油機に菜種を投入。油カスは機械の下部に排出される



〈菜の雫〉で揚げた唐揚げ

町を挙げて模索した答え

「すごくいい匂い！」 いただいたのは、外はカラッと中はジューシーに揚がった鶏の唐揚げ。〈かし和の郷〉が自慢の菜種油（菜の雫）で調理したお総菜です。

α-リノレン酸とリノール酸が豊富で、善玉コレステロールを増やしてくれると注目される菜種油。一般のサラダ油より酸化されにくく、揚げ物にしても油がくたびれにくいのが特徴です。〈かし和の郷〉は、2009年から菜種油の製造に取り組んで、利用者の給料増額の原動力にしました。昨年度の平均給料は2万4000円です。それまで草取りや資源回収がもたらがった〈かし和の郷〉が搾油事業に乗り出した経緯を、所長の佐々木百合子さんに伺いました。

「当事業所の開所10周年をお祝いする催しを2007年に開いたのですが、出席いただいた町の方々に『障がいのある人たちがこれだけ頑張っているんだから、工賃を上げるためにみんな何かやってみないか』という声が上がりました。『ひとしきり盛り上がったのだそうです。ふつうなら物語はこれでおしまい。でも雫石町の人たちは違いました。町の農林課、政策推進課、観光工課、総合福祉課に、営業組合、地元で道の駅を運営する第三セクター（株式会社）に、いまでも巻き込んだプロジェクトチームが発足したのです。そうして各地に視察に赴き、検討を重ねた結果、辿りついたのが菜の花でした。」

題して「すくしいし・菜のテクノロジープロジェクト」。菜の花栽培を核にして、地域の農業振興・観光振興・環境負荷の低減・福祉の向上を図ろうとする、一挙両得どころか三得も四得も狙った作戦です。



助成により今年2月に整備された保冷コンテナ



菜の花畑と岩手山がつくる景観は、すっかり春の雫石の風物詩



回収されてきた廃油はBDFに生まれ変わる



油カスをまとめ、肥料として販売



2016ふるさと名品オブ・ザ・イヤーの優良賞も受賞した「菜の雫」。無農薬・無添加の天然オイル。左から90g¥450、270g ¥700、450g ¥1080、116g ¥1200 (生オイル)



唐揚げを「冷凍食品にして通販できれば」と語る佐々木所長
「BDFを電気に代えられないかと、下川原事務局長

目指したのは、菜の花を核とした好循環

菜の花の栽培で、農家は遊休農地の活用ができます。開花すればその景観はもちろん、時期を合わせてイベントを企画することで観光にもプラスの効果が期待できます。
実った菜種からの搾油、瓶詰め作業はへかし和の郷の出番。絞った後の油カスも、肥料として販売できます。

菜種油は第三セクターが全国に販売するほか、町内で消費された分はその廃油を各家庭から回収。これもまたへかし和の郷でバイオディーゼル燃料(BDF)に精製し、町の公用車や小岩井農場の農耕機械の燃料として利用するという仕組みです。いいことずくめとは、まさにこのこと。
へかし和の郷は1Lにつき800円で搾油作業

を第三セクターから受託する計画でした。

絵に描いた餅にはさせない！

しかし、プロジェクトの実行には紆余曲折もありました。最大の危機は生産を始めて4年が経とうという頃。搾油量は順調に増加していきましたが、販売が比例するようには振るわず「在庫がだぶつく事態になってしまったのです」「佐々木さん。一時は計画の凍結案も出たほどだとか。今は調整しながらの生産となり、当初より料金も見直して搾油1Lにつき約420円で請け負っています。

事務局長の下川原幸夫さんは「私たちも、第三セクターに納めた「菜の雫」を仕入れて、自分で販売する努力もしています。仕入れた「菜の雫」は法事の引き物用などに販売するほか、自

ら運営する総菜店で調理に生かしています。これが人気で売上の大きな柱に育っています。

そして、もう一つ問題となっていたのが保管庫です。菜種は収穫後3カ月ほど寝かせてから絞り始めます。この間の保管状態は品質や歩留まりを大きく左右します。しかし、これまでは温度管理できる保管庫がなく「カビやネズミに見舞われる年もあった」と佐々木さん。「農家のみならずが一生懸命、収穫してくださったのに申し訳ないし、それでヤマト福祉財団さんに助成を申請したんです」

今年2月、待望の温度管理が可能なコンテナが設置されました。10tの保管ができる優れものです。これで無駄にする菜種を大幅に削減でき、搾油・肥料生産・BDF精製の三拍子揃ったさらなる収益向上が期待されます。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 33

ヤマト運輸労働組合
岩手支部執行委員
山本 寛之さん



有意義に使っていただけで良かった…!

今回は委員長の代理で、地元雫石町の障がいのある方の働く場を初めて拝見させていただきました。笑顔も明るく楽しい雰囲気職場でみなさん一生懸命働いていて、非常に素敵だなと思いました。私自身、高校までずっと雫石にいましたので、期せずして懐かしい顔にも会うことができ感謝です。

岩手で助成金が活用されている例は多くありませんが、地元でこのように有意義に使われている様子を実際に見ることができて、「ああ、夏のカンパをしてよかったな」と実感できました。こうした事例をまだ知らない社員もたくさんいると思いますので、ちゃんと伝えていきたいと思います。今日はたいへん勉強になりました。



この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業



雨の中でも、明るく楽しそうに配達する4人のメイトさんたち。右から伊藤翔太さん、平野凜さん、山中諒太さん、鎌田瑞希さん、職員 鈴木たえ子さん

雨や猛暑、吹雪の日だって、 楽しい配達の日に変わりは無い。

秋田県の大仙市大曲。NPO法人障がい者自立生活センター「ほっと大仙」障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」は、このまちです。すでに13年以上、クロネコDM便配達に携わっています。配達冊数は月平均、約1000冊。メイトさんたちは、チームで助け合いながら配達しています。

大仙市大曲

と気温が30度を超える日も。この厳しい気候の中で、利用者さんたちは嫌がらないだろうか、果たして安全に配達ができるのだろうかと悩んだのです。

「ところが、どんな暑さや寒さでも、

秋田県の南東部にある、8つの市町村が統合して生まれた大仙市。統合された中で、最大の市であった大曲は大仙市の中央部に位置し、日本有数の花火のまちとして知られています。JR東日本の大曲駅から、徒歩で約5分。商店街の中にある障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」は、2006年に「障がい者のクロネコメール便（後にDM便）配達事業」をスタート。6名がメイトさんとして登録し、その中の4人が中心となって、徒歩で毎日元気に配達しています。

当初の不安を メイトさんのやる気が消した

「ほっぺ」の奈良克久施設長は、DM便を始めるにあたって、不安があったそうです。大仙市の冬は、気温がマイナス10度以下になったり、降雪は2メートル以上のことも。つらさが落ちてきたり、ブルドーザーで除雪後の道はツルツル滑るなど、危険なことが多く、また、夏になる



▲メイトさんのリーダー的存在の伊藤翔太さん（右）。テキパキと仕分けのサポートをする平野凜さん（左）。
▼配達ルートについて、職員と相談する鎌田瑞希さん。

毎朝大きな声で 挨拶を練習

「ほっぺ」の朝は、朝礼と挨拶の練習から始まります。「おはようございます」「ありがとうございます」「おはようございます」「お先に失礼します」とみんなの大きな声が響きます。きちんと挨拶ができることよって、仕事への意識が高まり、一般就労につながるかと考えられています。そして、その後全員で掃除。それぞれの仕事の分担が決まると、一斉に作業の場所へ移動し、「ほっぺ」の1日が動き出します。

たとえ吹雪の日でも誰も文句を言わない。むしろ積極的に配達に出かけようとするんです。仕事をしたというみんなのやる気が、私の不安を消し去りました。DM便配達事業を引き受けて良かったと話します。

- 秋田主管支店 秋田大曲センター
面積104.69km²/人口18,165人/世帯数8,064世帯
- NPO法人障がい者自立生活センター「ほっと大仙」障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」
就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援事業所
2006年、クロネコメール便（後にDM便）をスタート。1日の配達冊数は約50冊。他に軽食の提供（食堂）、弁当・惣菜の製造販売、イベント等への出店など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」
参入施設数 318施設 従事者数 1,594人（2019年5月現在）
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



▲老舗の和菓子屋さんの店頭で、DM便を店主に笑顔で手渡す伊藤翔太さん(中)。一緒に届けたのは山中諒太さん(左)と平野凜さん(右)。

▲腰が痛くなった仲間に肩を貸したり、腕を支えたりしながら、さりげなくサポートするメイトさんたち。左から伊藤翔太さん、鎌田瑞希さん、山中諒太さん、職員 鈴木たえ子さんと平野凜さん(右)。



▲雨に濡れないように気をつけながら投函する山中諒太さん。「ひとつもミスなくできるとうれしい」。



▲丁寧に投函する平野凜さん。「配達することもまちを歩くことも楽しい。馴れたら、もっとたくさん配達したい」。

DM便モードにスイッチオン

DM便の担当者はテーブルに集まり、仕分けを開始します。エリアごとに分類し、地図にマークをしながら配達先を確認。配達ルートを決めて、あつという間に準備が完了しました。職員は、配達の順路についてのアドバイスをするだけ。ほぼメイトさんたちに任せています。

職員の今野充さんは、メイトさん

たちの仕事ぶりについて話します。「DM便の仕事に入るときは、みんなが一緒にDM便モードに切り替わります。スイッチが入るんですね。そして、嬉々として出かける。とても頼もしいですよ。」

腰が痛くなったチームメイトに肩を貸してサポート

配達に出かけたのは、4人のメイトさん。しかし、あいにく取材日は雨が降っていました。雨による歩きにくさなどから、途中でメンバーの一人、鎌田瑞希さんが腰に手を当てながら歩き出します。時々座って休む鎌田さんに、さりげなく肩を貸す伊藤翔太さんと山中諒太さん。職員の鈴木たえ子さんが「事務所の車で迎えに来てもらうか」と声をかけますが、最後まで配達したいと主張。鎌田さんはいいに歩き通しました。メイトさんたちのチームワークの良さ、仕事への意識の高さを感じられた出来事でした。

メイトさんの通る時間がまちの人の時計がわりに

「ほっぺ」のメイトさんたちが家の外を通ると、そろそろお昼かな、お茶の時間にしようか、って。まるで時計がわりですよ」という声が届くそうです。また、見知らぬ人に利用者さんたちがかわられていたりすると、まちの人が助けてくれることも。「これはDM便配達や年間70回以上

のイベントへの出店を通して、利用者さんたちがまちに溶け込んでいる証拠」と奈良施設長。「同じまちの仲間のように思ってもらえていると感じます」。

DM便にとって欠かせない重要な存在

ヤマト運輸秋田主管支店 秋田大



▲「ほっぺ」の奈良克久施設長(右)。「仕事は人を成長させます。わがままというのではなく、イヤなときはイヤとはっきり言う、主張できるチカラもつきます。閉じこもっているだけではできなかったことを、確実に身につけています。DM便配達是一般就労につながる確かなステップです」。職員の今野充さん(左)。「体力は確かにつきませぬ。最初、ついてこられなかった女性のメイトさんも、配達しているうちに男性と同じ速さで歩いています」。

していることが今につながりました。「いつものまちを歩いても、知らないところを見つけると、新鮮に感じる」と話す菊地望美さん。「いろんなポストに入れたり、いろんな人に渡したりできるのが楽しい」と戸井田章吾さん。そんなメイトさんたちは、ほっぺに笑顔を咲かせて、今日も元気にまちの中へ出かけて行きます。

ヤマト運輸秋田主管支店 サービスセンター 佐々木秀和センター長は「一生懸命、そして楽しく仕事をしていることを知って嬉しかったし、感動しました。これからも安全第一で続けてほしい」と結びました。

行き交うまちの人から「頑張ってる」と声をかけられる「ほっぺ」のメイトさんたち。いつも明るく挨拶を続けて、楽しそうに仕事を



▲前列左から「ほっぺ」奈良克久施設長、平野凜さん、菊地望美さん、戸井田章吾さん、山中諒太さん、伊藤翔太さん 後列左から職員 今野充さん、「ほっと大仙」石川和美理事長、職員 佐藤泉さん、職員 鈴木たえ子さん、ヤマト運輸秋田主管支店 秋田大曲支店 三浦信也支店長、ヤマト運輸秋田主管支店 サービスセンター 佐々木秀和センター長、ヤマト福祉財団東北支部 小原守事務長

協和界面科学株式会社／あらゆる物質の特性を数値化する測定器を製造し、商品開発や新素材開発を支える測定器の専門メーカーです。



総務部のフロアで社員のみなさんと。エプロンをしている中央の日暮さん、左から2番目が総務部の神保浩子さん

おばあちゃんと一緒に フランスを旅行するのが夢です

初めてのお給料で念願のゲーム機を買った日暮緩菜さん。次なる夢はフランス。きれいなところを見たい、行きたいと話しています。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

JR新座の駅から徒歩2分。特殊な測定器を開発するメーカー・協和界面科学株式会社で、日暮緩菜さんが働いています。

仕事は日常の清掃。外回りから事務所、ラウンジ、階段、トイレ、観葉植物の水やりまで館内の清掃を一人で担当しています。曜日ごとのメニューを決め、1週間で全体の掃除が完了するという仕組み。昨年7月から3カ月のトライアル雇用を経て10月から正式雇用となり、働き始めてから約1年になります。

総務部の神保浩子さんに日暮さんの成長ぶりをお伺いしました。

「仕事ができることはもちろんですが、素直で真面目な人柄が日暮さんの採用を決めた理由です。誰も見ていないところでも、陰ひなたなくきちんとやってくれます。成長したところ

仕事を通して成長してほしい



水やりも大事な役割



社内の清掃を一手に担当しています

日暮 緩菜 さん 協和界面科学株式会社(平成30年10月1日入社)

20歳になったらお酒を飲んでみたいと、話していた日暮さん。缶チューハイがお気に入りだと教えてくれました。

は、万遍なくやるだけではなく、汚れた場所を見つけて重点的に掃除をしたり、今日できたこと、できなかったことなどを報告してくれるようになったことです。

最初は事務所の自分の席で小さく、「おはようございます」といっていたのが、今では着替えて事務所に入ると、みなさんに笑顔で大きな声で朝のあいさつができるようになってきたことも大きな変化だといいます。

20歳の日暮さんは社内のアイドル的な存在。会社で社外講師をお呼びして行う社員研修にも参加したり、社員のみなさんも気軽に声をかけてくれる雰囲気があります。

障がいのある人もみんな仕事の楽しさを覚えて、社会参加ができる会社を目指したいというのが、会社のモットー。

「日暮さんにも、当社で仕事を通して成長していただきたいという気持ちが大きいです」と神保さん。ゆくゆくは清掃だけでなく、デスクワーク、パソコンを使うような仕事の幅も少しずつ広げていきたいと、日暮さんの可能性に期待されています。



社内バーベキューが日暮さんの20歳の誕生日、「緩菜スペシャル」のお肉を奥井専務が焼いてくれました(左)



6月17日に開催された
当財団の令和元年度第1回評議員会・
第2回理事会で、瀬戸薫理事長の後任として
山内雅喜(ヤマトホールディングス株式会社取締役会長)が
選出され就任しました

YWF TOPICS

自然栽培パーティ
ヤマトグループ社員も田植えに参加しました



1〜3本の苗を疎植えする自然栽培の田植え 作業のあとで利用者さんと一緒に記念撮影!!

6月8日(土)、自然栽培パーティの会員施設であるNPO法人多摩草むらの会の田んぼ(東京都八王子市)で今年の田植えが行われました。ヤマトグループの社員、約20名もボランティアで参加。家族で参加された方、田植えは初めてという方、みなさん一緒に利用者さんと苗を植えていきます。当日は曇りで田植えにはほどよい天気。障がい者施設の事業や、自然栽培、利用者さんの仕事など、理解を深める1日となりました。

優勝チームへ、自然栽培米600kgを贈呈



ヤマトホールディングス(株)丹澤常務執行役員から贈呈 優勝賞品のお米を生産した自然栽培パーティメンバーも決勝戦を観戦しました

5月12日(日)、車いすバスケットボールの「天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会」の決勝戦が行われました。優勝したのは宮城MAX。2008年から今年で11連覇の達成です。

オフィシャルスポンサーとして車いすバスケットボールを支援しているヤマトグループから、優勝チームに自然栽培パーティの全国9施設から収穫したお米600kgが贈呈されました。

ステップアップセミナー開催 6月8日(広島)、6月15日(山口)

第4期新堂塾募集も兼ねたステップアップセミナーが、広島、山口の2会場で開催されました。新堂塾長による「働く力を伸ばし工賃を高める実践」の講演では、塾長施設のチャレンジャーが高工賃を実現するまでの歩みと現状を、アドバイザーの東京学芸大学菅野教授は「障がいのある方が働くということ」をテーマに、働く能力の向上や、仕事の環境の見直しについて講演を行いました。事例報告では新堂塾卒業の1〜3期生が塾での実践を発表。シンポジウムでは会場から積極的な質問もあり、第4期新堂塾へのエントリーに向けて動き出しました。

※第4期新堂塾募集については、ヤマト福祉財団ホームページをご覧ください。

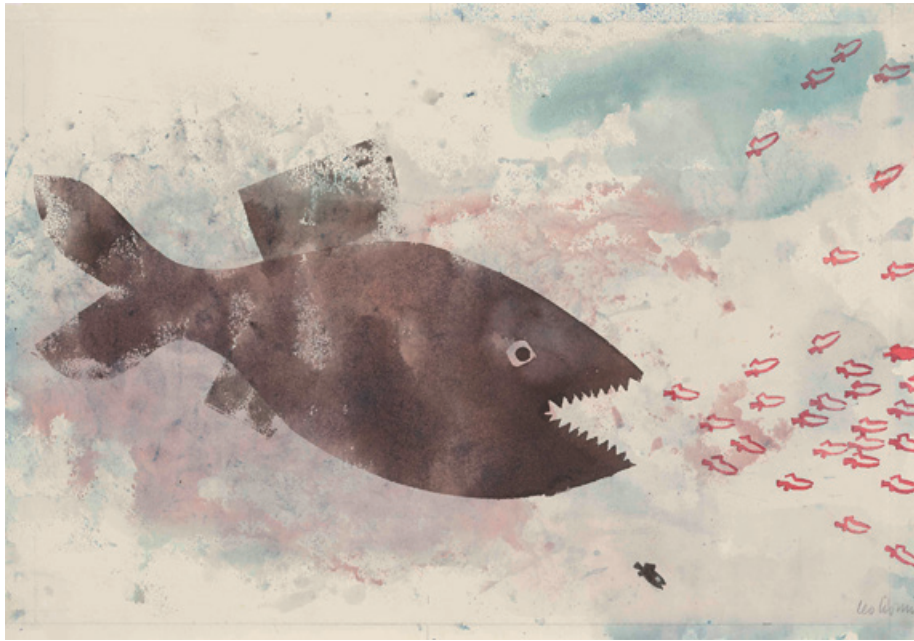


広島会場



山口会場

みんなのレオ・レオーニ展



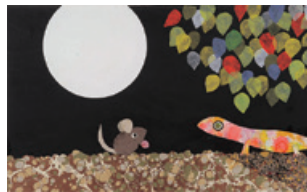
レオ・レオーニ「スイミー」1963年
Swimmy © 1963 by Leo Lionni, renewed 1991/Pantheon
On Loan By The Slovak National Gallery



レオ・レオーニ「ペツェットティーノ」1975年
Pezzettino © 1975 by Leo Lionni,
renewed 2004 by Nora Lionni and
Louis Mannie Lionni/Pantheon



レオ・レオーニ「あいうえおのき」1968年
The Alphabet Tree © 1968 renewed
1996 by Leo Lionni/Pantheon



レオ・レオーニ「アレクサンダとぜんまいねずみ」
1969年
Alexander and the Wind-up Mouse
© 1969, renewed 1997 by Leo
Lionni/Pantheon

Works by Leo Lionni, On Loan By The
Lionni Family

■ 絵本に初めて抽象表現を取り入れた作家

レオ・レオーニ(1910-1999)は、黒い魚の物語『スイミー』が小学校の教科書に採用され日本全国で親しまれています。オランダで生まれ、第二次世界大戦中にイタリアからアメリカに亡命。グラフィック・デザイナーとして活躍していた1959年に、孫のために『あおくとときいちゃん』を制作して絵本作家としてデビューします。この絵本は子どもの絵本として初めて抽象表現を取り入れたものとして知られています。

このほかにも、ねずみの『フレデリック』や、しゃくとりむしの『ひとあし ひとあし』など、小さな主人公が自分とは何かを模索し、学んでいく物語をさまざまな技法で描きました。1999年にイタリアで亡くなるまで40冊近くの絵本を発表し、日本でも多くの翻訳が出版されています。

■ 絵本『スイミー』の原画来日

本展ではユダヤ系であったためにヨーロッパとアメリカを移動し続けたレオーニの波乱の生涯を、作品と重ね合わせながら紹介します。絵本作家、アート・ディレクター、絵画、彫刻などの幅広い活動を紹介し、彼が子どもの絵本に初めて抽象表現を取り入れるに至った道筋にも光を当てます。

最大のみどころは、レオーニの作品で世代を超えて日本で愛されている絵本『スイミー』の幻の原画(スロバキア国立美術館所蔵)が来日することです。計5点の原画は絵本の絵とは少し異なるので、会場ですっきりとご覧いただけます。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

DATA

開催期間 ▶ 2019年7月13日(土)～9月29日(日)
休館日 ▶ 毎週月曜日
※ただし、7月15日、8月12日、9月16日、9月23日は開館、翌火曜日も開館
開催場所 ▶ 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館
(損保ジャパン日本興亜本社ビル42階)
アクセス ▶ JR新宿駅西口、丸ノ内線新宿駅・西新宿駅、
大江戸線新宿西口駅より徒歩5分
開館時間 ▶ 10:00～18:00
※最終入館は閉館30分前まで

観覧料 ▶

	一般	大学生
当日	1,300円	900円

※高校生以下無料
※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を提示のご本人と付き添いの方1名まで無料となります。被爆者健康手帳を提示の方はご本人のみ無料
主 催 ▶ 東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、朝日新聞社
協 賛 ▶ 損保ジャパン日本興亜

企画協力 ▶ Blueandyellow, LLC, コスモマーチャンダイズィング、渋谷出版企画
協 力 ▶ 好学社、あすなろ書房、至光社
問い合わせ先 ▶ TEL 03-5777-8600
(ハローダイヤル：美術館利用案内)
<https://www.sjnk-museum.org/>
巡回情報 ▶ 鹿児島展 長島美術館
2019年12月7日(土)～2020年1月19日(日)
沖縄展 沖縄県立博物館・美術館
2020年2月28日(金)～5月10日(日)

令和2年度福祉助成金募集

ヤマト福祉財団は、障がいのある方々の収入が増えれば豊かで幸せな人生の夢が実現すると信じています。

そこで、利用者さんの給料増額を目指す福祉施設が「経済的な自立力」を向上するためのお手伝いとして、新規事業の立上げや生産性向上に必要な設備などの購入を支援する助成金事業と、障がいのある方々の福祉を増進する効果的な事業に対して助成金を支給しています。

応募期間

令和元年10月1日から11月30日まで(当日消印有効)

I. 障がい者給料増額支援助成金

- ジャンプアップ助成金 助成金額 1件あたり定額500万円
- ステップアップ助成金 助成金額 1件あたり上限200万円

II. 障がい者福祉助成金

助成総額 1000万円(1件あたり最大100万円)

問い合わせ先

公益財団法人ヤマト福祉財団 助成金事務局 TEL: 03-3248-0691

募集内容・応募要件等詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.yamato-fukushi.jp/>

